

宮澤 拓哉 得意のパターンで 圧勝！！

順位	選手名	スコア
1	宮澤 拓哉	277
7	宮藤 祐太	264
10	Brian Greenwood	253
8	小原 聖之	251
12	廣岡 光希	247
4	新畑 雄飛	237
2	内藤 広人	243
6	植田 蒼生	221
11	藤原 晃盛	200
9	畑 秀明	218
5	八坂 良次	198
3	菊田 樹	193



会場のどよめきが起こる中、得意のインサイドから攻める驚異の宮澤パターン

予選6ゲームCシフトを、驚異の248アベでトップ通過の宮澤。予選は3シフト行われ、Aシフトでは立花仁貴(JBC)231アベ、Bシフトは新畑雄飛(JBC)234アベでトップ通過した。準決勝は予選のスコアはリセット。通過者36名で3G、上位18名が2回戦へ、合計5ゲームで更に上位12名に絞られる。さあ決勝トーナメントだ。ここからは1Gの一発勝負。JPBAプロが5名残る。迎え撃つは名だたるアマチュアボウラーだ。準決勝上位4名は1回戦シード。宮澤拓哉・内藤広人(JPBA)・菊田樹(JBC)・新畑雄飛の4名。しかしこの4名は強い。1回戦を勝ち上がってきた面々をすべて撃破。この4名によるベスト4対決。まずは宮澤対新畑。前のゲーム279で勝ち上がってきた新畑。8フレで2フレこそオープンだがその後6連続ストライクで追い上げる。一方の宮澤3フレこそスペアだが他はストライクで1マークリード。追う新畑9フレ惜しくも9スペ。宮澤8フレから更にギアを上げる。ボールをロフトしてストライクを続ける。最後は277のスコアで新畑を突き放した。一方のゾーンは菊田对内藤のリージョナルニューフェイス対決。どちらも目を離せない白熱したストライク合戦になったが菊田9フレまさかのスペアミス。10フレ1ピンリードで内藤。ところが内藤、ここでまさかの2-8-10痛恨のスプリット。二転三転したゲームは、菊田234对内藤221で菊田が決勝進出。どちらも凄いゲームだった。



両手投げの菊田対宮澤の決勝戦は、準決勝以来使用していない11番、12番レーン。先ほどの試合の興奮が冷めやらぬ中、スタート。菊田1フレストライク、さきほどまでエッジ付近まで出してロフトしていたボールをどう投球するか？1フレ宮澤はそこまでロフトしないで得意のインサイド投球、惜しくも9番ピンタップでスペア。2フレ菊田、10ピンタップ、ここまでバックアップ投法でスペアをカバーし場内を沸かせてきたが、初のミス。決勝戦の緊張か。好調の両手投げ、精度の高い投球に少し狂いが生じる。5フレ終了で宮澤15ピン差のリード。一方の宮澤もストライクは続かず、お互いにストライク、スペアで10フレを15ピン差で迎える。1投目、宮澤ストライクで優勝が決まる。見事ストライク。惜しくも2位、アニマルリーグでも活躍、東海の両手投げホープ菊田の健闘が光った。

予選から決勝まで14G、246アベで突っ走った宮澤。最小スコアが決勝戦の219だった。さすがの宇宙人(愛称)も決勝戦は緊張していたのかも知れない。リージョナル3勝目、前週はJPBAの日本選手権を優勝して、2週連続優勝となった。



「準決勝はリオイルされるので、外のフッキングポイントは使えないかなと思っていたが、案外止まって使えるのでそのまま得意のラインを攻めました。」と、語る。唯一ウレタンボールじゃなくリアクティブ使用。宮澤曰く、上から2番目の、手前から動いてくれて先がゆるやかに曲がるボールを使用したそうだ。

2023年12月24日 カメレオン・オープン



2位：菊田選手



ベスト3 左から菊田・宮澤・新畑・(パーフェクト)グリーンウッド

●言葉では言い表せない痺れる戦い。この緊張あふれる戦いを、もう一度観たい方は、ユーチューブ「PBAJapan」で検索してご覧ください